



訪問しました!

# こうべ男女いきいき事業所

## 株式会社カネヘイ

今回は、平成21年度「こうべ男女いきいき事業所」のひとつに表彰された青果物専門商社の株式会社カネヘイを訪ねました。神戸市中央卸売市場で野菜と果物の卸売を手がける会社として長く男性社員が業務の大半を担ってきましたが、これからの青果流通には女性の視点こそ重要と、業務のあり方や勤務時間を大きく転換。誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

株式会社 カネヘイ 代表取締役 そう わ まさふみ 宗和正文さん



代表取締役の宗和正文さん

## 業務の見直しで働きやすい職場に

創業は明治25年。神戸の青果卸売業者のなかでも長い歴史を誇るカネヘイには現在、27人の従業員のうち女性が7人います。営業と事務に分かれる部署のうち、これまで女性社員は日中に仕事をする事務部門にのみ配属。卸売市場の朝は早く営業社員は朝3時頃に出社する必要があったからです。

同社代表取締役の宗和正文さんもそれを当然のことと考えてきましたが、数年前から急速に神戸の卸売業界を取り巻く環境に変化の兆しが見えてきたと言います。

「量販店が増え、卸売の商売自体が変わってきました。量販店のバイヤーが市場に常駐しながら仕入れを行うスタイルから、本部バイヤーが包括的に仕入れを行うスタイルが中心になってきました。しかも、ただ先方からのオーダーを待つだけでなく、どれだけ良い提案ができるかが問われるようになったのです」。

“商材のプロ”と自認してきた同社でしたが、「青果物は商材である前に食材。エンドユーザーとしての視点がなくは取引先に支持してもらえない」と危機感を抱くようになります。必要なのは、実際に量販店や小売店で買い物をする女性の視点ではないか?もっと女性の力を活用するべきではないか?これが長年続いてきた業務の見直しにつながります。

まずは、一人の社員が品目ごとに最初から最後まで受け持っていた営業の仕事を取引先ごとのチーム担当制に変更。朝8時からの始業を可能にすることで、女性も営業職に就けるようにしました。さらに業務の流れを分解して、一つの仕事を複数の社員で受け持つマルチタスクへ。この改革で、それま

で現場を離れることができず不可能だった産地開発のための出張が可能になるなど、ビジネスの幅がぐっと広がりました。一方で、子どもの急な病気で休んだり、未消化が多かった有給休暇が取得しやすくなるメリットも生まれたのです。

## 小さな企業だからこそ素早く改善できる

会社の制度としても、育児休業のほか、育児のための短時間勤務制度や始業・終業時間の変更、看護休暇制度などを次々導入。女性も男性も働きやすい環境を充実させ、今はセクションごとに柔軟に活用しています。

事務を担当する金川郁子さんも制度をうまく活用しながら仕事と子育てを両立してきた一人。「子どもが小さい頃は、保育所から会社に連れて来て仕事をすることも多かったのですが、みんなで温かく見守ってくれました」と話します。

「そうやって仕事を続ける先輩社員を見て、若い社員たちも安心できるようです」と宗和さん。社内の応接室を託児所にリフォームし社員の子どもがいつでも利用できるようにするなど、スピーディーな改善で社員のワーク・ライフ・バランスを支えています。

「小さな会社は学習するスピードが速くて、思い立ったらすぐに改善できるのが強み。『できへん』ではなく、『どうやったらできるか』を考えることが大事」というのが持論です。

「なりたい姿を明文化することで、向かうべき方向に社員全員で進んでいきたい」と、小規模事業所でありながら一般事業主行動計画も策定。卸売業界の、そして小規模企業の“常識”を打ち破りながらの企業づくり、職場環境づくりを進めています。